

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372701021
法人名	社会福祉法人 順和会
事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ
訪問調査日	平成 21 年 3 月 31 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372701021
法人名	社会福祉法人 順和会
事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽4463番地 (電話) 0967-67-2515

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年4月28日

## 【情報提供票より】( 21年 3月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 10月 23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 階~ 2階

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 4,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	470 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要( 3 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿蘇立野病院 上村医院 悠心病院 きずな歯科医院
---------	--------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な阿蘇を一望できるホームは、自然治癒力を高めるには十分な自然環境と広々とした敷地に法人施設の廊下とつながり、法人施設やデイサービスとの人的交流や緊急時体制・職員の研修体制が確立している。今年度は基本理念4つの暮らしの中に地域とのふれあいをキーワードに追加し、地域との交流を促進している。101歳を筆頭に高齢化が進む中でも「自分らしい生活」をしたいという思いに、入居者一人ひとりに向き合い、本人本位になるよう寄り添いのケアを実践している。「生きている以上はがんばらんといかん」と野菜作りに取り組む入居者等これまでの生活を継続した取り組みが行われている。家族からの信頼も厚く、担当制としながらも職員の意思疎通も良く、チームケアを実践している。運営推進会議の更なる充実のために行政からの参加を促していただきたい。地域福祉の向上に寄与されており、今後も地域福祉発展の一役を担われることが大いに期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の結果を真摯に受け止め、全員で話し合い理念に地域密着型として地域へ積極的に出ていきたいとの思いを追加したり、金銭管理を明確にする意味合いから定期的に金銭使途を記入し送付するように変更している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己・外部評価をケアの振り返りとして明確に理解し、今回は項目別に振り分け全員で取り組み、職員も自己評価へ参加しケアを確認したことが自信へとつながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	20年度は2回の運営推進会議が開催され、介護報酬改定やホームの現状報告・活動報告や質疑応答が行われている。議事録からも活発な意見交換であることが窺われ、今後回数を増やし、運営推進会議を充実させホーム運営に活かす意向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	広報誌や職員からの便りを家族やキーパーソン以外にも送付し、関係強化を図っている。家族の訪問時が話を聞く機会と捉え、家族との密接な関係・交流を促進し信頼関係を築き、密な情報交換により家族の意見や要望をホーム運営に反映させている。入居時に相談窓口や第三者評価委員の配置や行政の相談窓口を説明し、重要事項説明書に明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地的な条件により併設施設も一つの隣であると位置づけ、併設施設との交流やデイサービス利用者との交流を図っている。地域の文化祭へ作品を出品し見学したり、地区のスポーツ大会観戦、小学校の運動会等職員からの情報や防災無線・本体からの行政便り等より情報を把握し、積極的に地域の中での生活を支援している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である“ぬくもりと安心の福祉”をもと開設時にホーム独自に基本理念4項目のホーム独自の理念を掲げていたが、昨年全員で話し合い、新たに地域密着型としての姿勢である、“一人ひとりが地域の中でふれあう暮らし”を追加している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を具体化しホーム内への掲示や名札に入れ意識付けを行い、入居者の訴えや希望を叶えるように常日ごろから職員一人ひとりが考え、理念の実践に真摯に取り組んでいる。全員で話合ったという理念は全員が共通認識でケアに当たっていることが聞き取りからも十分に推察できた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的な条件からは隣近所とのつきあいは難しいが、併設施設も一つの隣であると位置づけ、併設施設との交流やデイサービス利用者との交流を図っている。地域の文化祭へ作品を出品し見学したり、地区のスポーツ大会観戦、小学校の運動会等職員からの情報や防災無線・本体からの行政便り等より情報を把握し、積極的に地域の中での生活を支援している。また、子どもみこし等の訪問もあり、ホーム玄関には101歳の入居者の幼かりし日の同級生とデイサービスで出会い、笑顔での写真が掲示されており、何処にいても交流が図れることが確認できた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価をケアの振り返りとして明確に理解し、昨年度の結果を真摯に受止め、全員で話し合い理念に地域密着型として地域へ積極的に行きたいとの思いを追加したり、金銭管理を明確にする意味合いから定期的に金銭使途を記入し送付するように変更している。今回は項目別に振り分け全員で取組み、職員も自己評価へ参加しケアを確認できたことが自信となったとのことである。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	20年度は2回の運営推進会議が開催され、介護報酬改定やホームの現状報告・活動報告や質疑応答が行われている。議事録からも活発な意見交換であることが窺われ、今後回数を増やし、運営推進会議を充実させホーム運営に活かす意向である。	○	運営推進会議がホーム運営に反映すべく積極的な姿勢で取組まれており、回数を増やすことや不参加の家族へ議事録を送付し情報の共有化とされることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームとしては介護認定時等の交流や地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加があり、サービス向上に活かしている。併設施設を含め法人としての村との連携が図られている。	○	法人全体での村との連携が図れている。法人を通して今後も村へ情報を発信し、行政を動かす等の取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や電話にて状況報告をしたり、毎月ホームの取り組みや活動、職員の異動等を掲載した“陽なたぼっこ便り”とともに、担当職員が個々の状況を手紙にしたため送付し、家族の安心に繋げている。また、キーパーソン以外の家族にも手紙や陽なたぼっこ便りを送付している。金銭管理も定期的な書面にて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、意見や要望は出されていない。家族の訪問時が話を聞く機会と捉え、家族との密接な関係・交流を促進し信頼関係を築き、情報交換により家族の意見や要望をホーム運営に反映させている。外部評価時の家族のアンケートより金銭管理明細を明確にし定期的に郵送するよう変更する等具体的な改善が図られている。入居時に相談窓口や第三者評価委員の配置や行政の相談窓口を説明し、重要事項説明書に明記している。	○	運営推進会議の中で家族会の必要性が話し合われている。家族の訪問や行事・カンファレンスへの参加があり、行事への参加を家族同士の交流会としたり、家族会へとつながるようご尽力いただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動は適材適所とし、介護技術が身についた経験のある職員の異動としている。入居者へのダメージを最小限に抑えるため、異動前からホームに足を運んだり、入居者とのコミュニケーションに努めている。運営者・管理者は離職防止に職員の話聞く姿勢を意識し、職員とのコミュニケーションを図っており、離職者は出ていない。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修体制は確立し、ホームでは毎月職員がテーマを探し勉強会を開催しており、一人ひとりの自信へと繋げている。全職員が専門職としての資格も十分であるが更にレベルアップに取り組む等モチベーションが高く、法人のバックアップ体制が構築している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県やグループホーム連絡協議会のブロック会で同業者との情報交換や事例検討会等質の向上に努め、ホームが会場となっている。阿蘇郡市のグループホームで他の現場を知る機会を作りたいと相互訪問することも検討されている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込み時本人・家族の意向や思いを把握し、居宅でのケアマネジャーや病院のソーシャルワーカーから情報を把握している。ホーム見学や体験入居により職員との関係作りに努め、他の入居者と一緒に過ごし雰囲気を体験し安心した入居となるよう支援している。デイサービス利用からの入居者にデイサービスの延長上として、居宅や併設施設の送迎協力支援を得ながら、1ヶ月を掛け徐々にホームでの生活に馴染まれたケースもあり、外泊や外出等家族の協力支援等工夫している。		
----	----	--	---	--	--

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、個々のペースを尊重し、共に活動することを基本に、寄り添いのケアや傾聴により生き生きとした表情を引き出し、入居者の長く生きてきた人生の過程を共感し、お互いに協働しながらの生活環境作りに取り組んでいる。入居者は職員の表情を見て励ましの言葉をかけ、入居者から得意分野である“草鞋”作りを教えてもらったり、畑仕事や高菜等経験や知恵を拝借したりと職員の良き理解者として共に支えあう関係を築いている。		
----	----	--	---	--	--

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報や日常生活の中で希望や意向の申し出にその都度対応し、意思を尊重しながら生き生きとした生活を引き出すよう取組んでいる。意思表示の困難な入居者には職員がゆっくり隣に寄り添い本人のペースに合わせたり、職員間の情報交換により本人本位のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を把握し担当職員が立案し、1ヶ月程を本人を観察する期間とし申し送りノートを活用しながら情報把握に努め、家族・担当者・職員でカンファレンスを開催し、正式なプランを作成している。職員の観察の結果や本人・家族の結果が反映した介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎のモニタリングや認定更新時に見直しているが、心身状態変化や入院等によって再アセスメントし、家族や関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の高齢化・重度化の中で日々の記録の充実により状態変化の早期発見に努め、協力医療機関・専門医の往診、訪問歯科診療や受診時には看護師同伴での送迎対応等多機能を発揮している。個別買物や職員での理美容支援、併設施設の大型バス借用によるショッピングや行事ボランティアの受入れ等の楽しみ事の支援もある。インスリンを投与したり、病歴に応じ管理栄養士による特別食支援等もあり、医療行為を受けながらホームでの生活を継続させている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に協力医療機関の説明を行い、もともとのかかりつけ医や協力医療機関となっており、協力医療機関からの往診や緊急時のバックアップ体制により適切な医療を支援している。		
		○重度化や終末期に向けた方針の共有			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する指針をもとにホームで出きる最大限のケアを家族に説明している。終末期ケアの実例は無いが、心疾患等もおられ、カンファレンスや家族の訪問時に状況を報告し家族の意向に努め、主治医に相談している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に合わせた声かけや傾聴する姿勢、トイレ誘導等入居者の誇りやプライバシーに配慮したケアを実践している。職員の優しいケアやお互いが思いやりをもって日常生活を送られていることが訪問時の入居者との会話からも確認できた。管理者は会議等で事例を通して指導を行い、職員同士もお互い話し合い意識向上を図っている。個人情報管理マニュアルを作成し、情報漏えいの無いよう記録物を管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールの中でも、心身の状態を考慮しながら一人ひとりのペースを最優先にした生活を支援している。午後の時間は畑仕事に精を出す入居者や廊下での歩行訓練、居室で自分のライフスタイルを崩さず新聞のスクラップに勤しむ入居者等本人の意向である自分らしい生活を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が配置され、栄養バランスを考えた献立であるが、立地条件を生かし入居者とともに採取した阿蘇高菜や山菜等旬の野菜も食卓に上っている。入居者の能力に応じ調理への参加や食後の洗物等一緒に行い、職員も一緒にケアをしたり食の進み具合を確認しながらの和気藹々とした食事となっている。季節に応じた行事食も入居者の思い出を引き出し楽しみ事となっている。		
		○入浴を楽しむことができる支援			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じ毎日の入浴が可能である。バイタルチェックで入浴可否を見極め、入浴時間帯も個々の希望により午前・午後と入りたい時間となっている。入居者同士での入浴等リフレッシュ時間として生かされ、入浴拒否者には入浴チェック表のもと週2回以上の入浴を声かけしたり、清拭等により清拭保持に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出来ることや特技を把握し出番や得意分野を発揮できるよう支援しており、季節に応じた外出・行事への参加、料理への参加や洗濯ものたたみ・花壇作り・野菜作り等一緒に取組んでいる。文化祭へも入居者と共に大作を作り展示し自信回復へとつなげたり、趣味の継続等個々の役割やメリハリのある日常生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に応じ自宅訪問やドライブ等個別対応や社会生活支援の一環としてショッピングも採り入れている。天気の良い日は東屋や広い敷地内を散歩したり、花の草取りや菜園の管理等気分転換等や五感への刺激の機会を設けており、森林浴等自然環境も活かされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全員が鍵の無いケアの意義を理解し、入居者の行動を見守り、所在確認の徹底により、玄関や居室は開錠している。居室は掃きだし窓のため、日中居室で過ごされる入居者にも時間毎に所在確認を行い、外出傾向を察知し散歩したり、自宅の様子を確認し安心してもらう等支援している。また、法人全体が連携して見守り支援に取り組んでいる。		
		○災害対策			



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設との全体避難訓練や消防署立会いで消化栓や消火器の取り扱い等入居者と共に行っている。定期的な消火設備の点検を行い、開設時より緊急通報システムやスプリンクラーが設置されている。災害発生時マニュアル等も整備され、法人として周辺地域の火災発生時には協力する体制となっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量、体重を記録し健康管理を行い、管理栄養士が栄養バランスや一日1,400カロリーを目安に支援している。健康状態により特別食としたり、摂食・嚥下状態によりお粥やとろみ、体重増加にはこんにやくご飯等個別支援を行い、血液検査の結果によっては主治医との相談のもと栄養補助ドリンクを使用している。水分は3食時、午前・午後・入浴後等適時支援し、夜間も居室に飲み物を用意するなど細やかな支援が行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットから阿蘇の山々が一望でき、ホームにいて四季の移り変わりを感じることができる。玄関周りの草花や生活空間には季節の花が生けられ、入居者の作品の展示や写真が掲示され、温かみのある家庭的な雰囲気を出している。椅子やソファを設け、仲間同士が思い思いに過ごせる場所が多数作られ、清潔感漂うホームであり、居心地良く過ごす工夫が随所に見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には番地が付けられ、ベッドと洋服ダンスはホーム側が用意しているが、ダンスやソファ、机や椅子、家族写真や位牌等が持ち込まれている。畳を入れ布団での生活や位牌に毎日お茶を上げ手を合わせられる入居者等自宅での延長線であることを認識した居室としたり、高齢で合っても自分でレイアウトし整理整頓された居室等個々に合わせた居室となっている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ
(ユニット名)	あじさい通り
所在地 (県・市町村名)	熊本県阿蘇郡南阿蘇村
記入者名 (管理者)	緒方 健造
記入日	平成 21年 3月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に、独自理念である「4つの暮らし」に、地域密着型サービスとしての理念を追加し掲げている。	○	地域に向けた理念を、スタッフ間で話し合い、「ふれあい」をキーワードに理念の追加をしている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念の共有を図る為に、理念の掲示や名札に入れて携帯するなど、実践につなげている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては入居の際に理念を明確に分かりやすく説明し、事業所内の玄関、事務所、リビングの掲示はもとよりパンフレットや広報、運営推進会議で地域に広く理解してもらえよう努めている。	○	理念としてだけではなく、地域に対してグループホームの役割・機能を知っていただくように取り組みたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所との付き合いは立地条件的に難しいが、ホームとしては常に開放しており、併設施設との行事案内をしたり、デイセンター利用者の訪問や逆にデイセンターに出向く機会をつくるようにしている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる文化祭への出品や見学、地区のスポーツ大会観戦、小学校の運動会の見学や学習発表会の案内があり、参加するようにしている。但し地域との関りに消極的な方もいる為、グループホームとしての関りとは別に個人の思いも尊重している。	○	自治会や老人会等の地域活動に積極的に参加することは現状では難しい面はあるが、地域と交流する機会は今後も継続したいと思っており、増やしたいとも考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中学校の福祉体験や高校(福祉課)、福祉専門学校生の実習受け入れや教育実習生、教職員福祉研修等を受け入れる事で認知症高齢者の理解やケアの向上、人材の育成に貢献していると考えている。	○	事業所として、どれだけの地域貢献・取り組みが出来るか検討しながら、今後も要望などがあれば事業所として積極的に協力する姿勢は保ちたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を各スタッフで行うことで、それぞれのケアや取り組みの振り返りとして活用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の概要、理念、活動報告を行い現状を理解していただく事から始め、今後の取り組み等、率直な意見交換を行っている。	○	運営推進会議の開催時期や回数をより充実させながら、取り組みの報告、情報の公開等、事業所としての役割を知って頂きながらサービス向上につなげたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の特養、デイサービスを含めた法人全体としての村との連携が図れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護事業の勉強会を行っており、スタッフの制度の理解に努め、利用者や家族、地域の方に対して、必要性があれば相談・援助ができるようにしている。	○	現状では利用されている方はいないが、必要性が生じた場合は、活用に向けた支援を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護と同様に高齢者虐待防止関連の学習会を行っており、虐待の種類や心身に与える影響を知る事で事業所内での防止に努めている。	○	何気ないスタッフの言動や行動にも注意しながら、習慣的になる事がないように、意識の徹底、共有に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書により、分かり易い説明に努めている。医療連携体制の内容、看取りについての方針も説明し同意してもらっている。	○ 契約、入居時に書面により説明していることでも時間が経過し、再度説明の必要性が生じることもあり、随時説明出来るようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中での要望や思いの実現を第一に心掛けている。日常生活での問題や不安・不満を聞く機会を日常的に設け都度対応している。	○ 入居者の意見がより生活に反映されるように、今後も要望や不満が言い易い環境作りに心がけたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の取り組みや活動、スタッフの異動について毎月広報を発行し、各入居者の状況は各担当から広報と一緒に手紙を送付している。家族への報告は些細なことも面会時や電話による報告を基本としている。金銭管理についても定期的に書面による報告を行っている。	○ 事業所としてはもちろんであるが、各担当と家族との関係を特に大事にしており、報告を密に行なうことで、家族との情報交換、共有が図れると認識している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に事業所内の相談窓口はもちろん、第三者評価委員を配置していることや行政の相談受付機関の案内をし、重要事項説明書に明記している。事業所玄関に意見箱の設置や面会時に直接、意見聴取に努めている。	○ 意見箱の設置はしているが、利用はない。相談窓口や相談機関の利用を積極的に働きかけたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者などの意見に偏る事がないよう、意見が出やすいような環境作りに努めながら、日々の業務の中や会議時に意見交換の場を設けている。	○ スタッフの考えを知るためにも、話しを聞くという姿勢は意識して保ちたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や外出、病院受診に合わせた勤務体制を整えており管理者を含めて状況に応じた職員配置と柔軟な変更が出来る様になっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動に関する入居者への説明はもちろん異動後も影響が少ないように、異動前の早い段階から顔見せやコミュニケーションを図る時間を設ける等工夫している。	○ 異動に関しては、メリットもあると考えられるが、入居者への影響を最小限になるような対応と、入居者の反応には十分な注意をはらいたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修の受講、協力医療機関の健康教室や外部研修の参加に努めている。又、介護福祉士、介護支援専門員と経験に応じた資格取得、ステップアップへの協力体制が図れている。	○ 継続してホーム内の勉強会や外部研修会へのスタッフ参加に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム連絡会の研修会・学習会に参加し情報交換を行う事で、質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	併設施設として業務上の悩み等、相談出来る対象が多くいることや、親睦会や職員旅行への参加、環境的にはリビング横にテレビ、冷暖房完備の休憩室が配置され業務と完全に離れる事が出来る空間を設けている。勤務シフトに関しても配慮し働きやすい環境づくりに心掛けている。	○ 取り組み、考え方の一つとして勤務シフト、特に希望休には配慮した勤務表を作成している、家庭と仕事のバランスや余暇を充実して送れることで、ストレスの軽減につながると考える。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人全体としてスタッフの資格取得について積極的に支援されており、各自が資格取得という明確な目標に向かって努力出来るような体制が出来ている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の状態も含めて、それぞれに不安や求めている事には違いがあり、表現されること自体難しい場合もあると思われるが、出来る限り本人の思いを引き出すように心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の面談の際にご家族からの思いを十分に聞いたうえで、それについて事業所としてどのような対応が出来て、何が出来ないのかを理解していただく、家族の思いを含めた状況を把握する事と事業所の考えを知っていただく事が関係づくりの第一歩と考える。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的に併設の居宅支援事業所と共に初期の見極めを行い、当事業所の入居も含めて他サービスの必要性も検討し対応している。	○	対象者の状況や相談の内容によっては、他のサービスや事業所の紹介をする等行なっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や体験入居等は随時受け入れ可能としており、スタッフとの関係作りや環境、雰囲気慣れて頂くことを勧めている。又可能であれば状況に応じてご家族に協力を依頼し、入居後も外泊・外出を多く取り入れながら、徐々に生活に慣れて頂いている。	○	入居後、生活に慣れられるまでの期間をデイサービスやショートステイ的な利用計画を立て、その間は居宅や併設事業所の送迎協力等もありスムーズな入居に至った。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の生活のペースを尊重しながら、共に活動し過ごす事を基本としており、お互いに協働しながら生活できる環境づくりに努めている。又スタッフの良き理解者としての役割を意識して頂くことでより良い関係作りに努めている。	○	馴染みのある活動を計画し、スタッフと共に協力しながら、満足感が得られるような時間を提供したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	各担当との関係作りは大切にしており、日々の暮らしや体調面での状況等月に一度広報と一緒に担当より近況報告し、情報の共有に努めている。又問題ある場合は随時連絡し共に問題解決を行い、ご家族とスタッフで入居者を支えあう関係作りに努めている。	○	家族と入居者を支え合う関係作りを築くにあたり、まずホームでの生活状況を知っていただく事が大事であると考えており、良い報告ばかりではない場合もあるが、情報を共有することでより良い関係作りが図れると考える。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者とキーパーソンの家族、その他の家族との関係を充分理解した上で支援する事を基本としている。広報や近況報告をはじめ、行事の案内を行い一緒に過ごすきっかけづくりも行っている。関係が深いご家族には広報や案内を送付している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた商店や理容店に出かけたり、ショートステイやデイサービスを利用されていた方には、併設の利点を生かし、同じ地域の方の利用日に面会に行く事で、馴染みの関係の継続に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	限られた居住空間内で生活する中で、お互いを尊重し支えあって生活していけるように支援している。自宅が近く馴染みの方が入居していてもユニットが違う事もある為、普段より行き来したり、行事等合同で行うことで関係維持に努めている。	○	入居者間で過度の関わりあいが、逆に疲労になる事や、性格上周囲の方に遠慮しながら生活されている方もいる為、さりげなくサポートする事でよい関係をつくっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、退居されても症状が改善すれば再入居を希望される家族もおられる為、ホーム側からも退去後の様子伺い等を行い、状態の把握、連絡に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向については入居時に把握するように努めている。日常生活の中でも希望や意向は伝えられる事もあり、都度対応している。伝えることが困難な方は職員間での情報交換等で把握に努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族や関係者からこれまでの生活状況や人間関係、社会との関わり、サービス利用状況をフェースシートに記録し全スタッフで確認、把握している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人のもてる力を発揮できるよう現状を把握し、日々の経過を細めに記録することで情報の共有を図っている。体調面を考慮し、その人らしく生活できるよう支援を行い、生きがいとしている作業など提供している。	○	主に入居者の状況把握を行なう手段としては、記録が重要になるが、全体的な日々の日誌や個別のケース記録、申し送りノートを有効に活用している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの意見や希望を事前に尋ね、作成した計画書を、家族、担当者、スタッフで話し合いを行い決定しており、それぞれの意見を反映した介護計画作成に努めている。	○	計画作成にあたっては、カンファレンスに家族の参加を基本としており、計画内容を理解して頂いている。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング、計画の見直しを行なっているが、病気の進行、退院後の機能低下、精神状態の変化等生じた場合は、再アセスメントを基本としており、家族、関係者と話し合い、新たな計画を作成している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体的な業務日誌(日勤・夜勤)の記入と個別に記録するケース記録の記入を毎日行っている。ケース記録は日勤帯、夜勤帯、プラン内容に関する記録を色分けすることで、計画作成や見直し時に日々の経過や振り返りとして役立っている。ユニット毎にも申し送りノートがあり情報を共有することで見直しにも活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や専門医の往診に加え、訪問歯科診療や病院受診時は看護師付き添いによる送迎を基本としている、医療連携体制により夜間も含めて医療面の充実が図れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設特養での行事の舞踊、民謡、マジック等のボランティアの個人・団体、中学校のブラスバンド、地域の祭りでの子供みこし、理美容組合の理容奉仕、移動図書館の利用等、法人全体としての関わり、支援をして頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在、他のサービスを利用されている入居者はいないが、希望や必要性があってその内容に応じたサービスがあれば対応したいと考える。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターより参加して頂いており、これをきっかけに、情報交換を密に、ケアの向上に努めたいと思っている。	○	会議時に地域密着型サービスとしての運営や取り組みに対しての助言を頂いている、今後に活かしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び、家族等の希望を取り入れながら、納得された主治医の定期的な往診、又他科受診、救急受診時の協力病院からのバックアップにより入居者の状態に応じた適切な医療を受けられるように配慮している。変更を望まれない場合はこれまでのかかりつけ医の受診継続としている。	○	緊急時の対応として、協力病院、かかりつけ医との連携、情報交換がスムーズにいくように調整、依頼したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院、専門医(精神科)の定期的な往診により、スタッフの認知症の原因としての脳疾患の知識を得て、適した対応を心掛けている。入居者が専門的な診察や治療を受けられるように働きかけを行なっている。	○	専門医(精神科)に往診に来て頂いており、入居者がその人らしく暮らせるように認知症へとつながる脳疾患の病型を知り、適したケアを提供したい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関や併設施設の医療関係者や看護師と常に情報交換を行うことで、より適切な医療的支援に努めている。	○	相談できる機会を多くつくり、情報をより良い支援へとつなげていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は速やかに情報提供を行うことで入院中の支援がスムーズにいくように又、環境の変化による支障が最小限になるようにスタッフ、看護師により定期的な面会を行い、病棟より病状を知り、互いに早期退院に向けた連携に心掛けている。	○	協力医療機関との定期的な会議を行い、情報交換を図っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を検討する中で、カンファレンス時だけでなく面会時の状況報告などで家族の意向を把握しながら、それを主治医にも報告・相談している。	○	家族として徐々に重度化される姿を目にされる中で、家族の想いも変化する事もある、都度把握に努めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りの指針に沿って、本人、家族の希望を優先したいと思っている。協力医療機関、かかりつけ医はもちろん、併設特養との意見交換や福祉用具の借り入れ等の支援も受けている。終末期のケアの実践はないが、同様の体制で取り組みたいと考えている。	○	各疾患の病状に応じた対応方法や状態の見極め方など、日頃からスキルアップを図りたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの経過からすると入院もしくは介護保険施設への入所が大半であるが、心身の状況等きめ細かい情報提供を行う事でこれまでの生活の継続が図れるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を傷つけるような言葉掛けや対応には注意し、さりげない介護に努めるようにスタッフ間でも意識の向上に努めている。個人情報漏洩防止については、マニュアル作成し確認している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の行動を受容することで感情の表出を促している。自分で気持ちを伝えられない方や問いかけにも答えられない方には、その時々に応じてジェスチャーやわかり易い言葉などでコミュニケーションを図っている	○ 日々の業務の中でスタッフが落ち着いて行動することで、希望等、言いやすいような環境づくりに努めたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康・精神状態を考慮した対応を基本としており、日課やスタッフの業務に左右される事がないように柔軟に対応するよう心掛けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望に応じたスタイルに職員がカットしたり、理容奉仕馴染みの美容室に行かれる方もおられる。毎日の服の着替えは季節に応じた衣類を選べる方には選んでもらっている。また外出や行事時に化粧をしたり、ショッピングで好みの衣類を購入したりしている。	○ 年齢を重ねても身だしなみやおしゃれについての意識や気持ちを持ち続ける事は大切なことである、今後も尊重して対応したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立にてバランスの取れた食事提供を行っており、定期的に献立に関して意見を聞いている。スタッフも一緒に食事をする事で親近感が生まれている。個々の摂取状況にあわせ、食事形態を工夫する事で安全な食事に努めている。また、出来る方には下膳など一緒に行き、状況に応じて出来ない所はさりげなくカバーしている	○ 食事面については管理栄養士を固定して配置できており、入居者一人一人の意見や好み、状態を直に接する事でより充実するように取り組みたいと考える。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	普段、煙草や酒類を希望される方はいないが、お祝い席(誕生会・敬老会・正月)の時等、お酒の希望あれば対応している。誕生会の時には誕生者に事前に希望を聞き祝い食としている。	○ 慢性的な疾患により、本人の望む物をそのまま提供できない場合もあるが、栄養士と相談の上代替品等検討し満足して頂けるような対応に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンや状況に応じて、声掛けやトイレ誘導を随時行っており、不快感無く、気持ち良く過していただくように対応している、		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は毎日入れるようになっており、入りたい日や希望の時間に出来るだけ対応している。清潔保持はもちろん、気の合う入居者同士一緒に入られることで、入浴が気分的なリフレッシュの時間として活用できている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整えるよう日中の活動をうながしたり、昼食後にはゆっくりと休息出来る時間を設けている。自室では眠れない方や人の気配がないと落ち着かない方もおられる為、個々に対応している。夜間眠れない等訴えある場合は、リビングや居居で会話し安心して眠れるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中では食器洗い・洗濯物たたみ・花壇作り・野菜作り・縫い物等これまでの生活歴から個々の生き甲斐づくりとして支援している。文化祭等への展示物作製としてのわらじ作りや畑仕事・高菜漬け等経験や知恵を發揮できる場を提供し支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的ショッピングに出かけ、買い物後の支払いは、入居者本人が自分で行えるよう様に支援し社会性の維持につなげている。お金の所持については、入居者の能力や家族の希望に応じて、個別に対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の状況や希望に応じて、自宅の様子を見に行ったり、スタッフと共に薬取り等と一緒に外出しドライブしたり、天気の良い日など東屋や敷地内の散歩、菜園の様子見や中庭の花の草取り等々気分転換や五感刺激の機会を日常的に設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜・つつじ・紫陽花・コスモス見学など季節を感じていただける外出を主に行い、地域の行事や入居者の希望に応じた外出を行なっている。	○	家族との関わりとして、外出行事を有効に活用したいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎはもちろんであるが、リビングにある電話をいつでも使えるようにしており、相手の了承を得た上で好きな時に連絡出来るようにしている。知人からの手紙の返事や年賀状等のやり取りの支援も行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的に面会時間は設けておらず都合の良い時間に来て頂けるように配慮している。お茶出しを行い、面会者に応じてリビングで過されたり居室や談話室に案内したりと気を使われること無くゆっくり過して頂くように心掛けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令上の具体的な行為は勉強会等で共通認識とし、心身に与える影響を理解することで身体拘束はしないのが当たり前という考えがスタッフには定着している。こまめの巡回や付き添いによるケアに努めている。	○	随時、勉強会を行い意識の徹底、防止に努めたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の不穏や状況によっては一時的に施錠する事もあったが、今現在日中は玄関、居室と鍵はかけないことを基本としている、夜間は家庭の戸締りと一緒であることを説明し施錠している。	○	施錠するという行為が、日常的に常態化することがないよう、意識の徹底、統一を今後も図りたい。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間共に所在確認は常時徹底する業務であり、居室、トイレ、リビング等ホーム内何処に誰がいるのかを、スタッフ間で声かけしながら把握に努めている。日中自室で過ごされる方もおりプライバシー配慮の観点からも入室時はノックすることや、さりげない安全確認に努めている。	○	所在確認表を作成、利用することで意識向上に努めている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は預かる事になっているが使用目的が適正であるかを常に確認しながら危険なものは個々の対応を基本としている。又一緒に作業するなど、管理に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止に対する環境整備や誤嚥防止の為の食事形態の工夫等、入居者個々の想定される事故やヒヤリハットを会議等で検討し、緊急対応時のマニュアルも作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応策はマニュアルを作成し、職員間で確認している。急変時の対応についての勉強会を行うことで全スタッフが対応できるようにしている。	○	緊急時の対応が更に落ち着いて出来るように、勉強会などでシミュレーション等を取り入れる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設特養との火災時の全体避難訓練や消化栓の取り扱い、消火器を使った消化訓練を消防署立会いで実施しており、消化設備の点検も定期的に行われている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時やケア会議時、又面会時に今現在の心身の状況を説明し今後起こりうる状況(転倒、将来的なレベル低下)をご家族には理解して頂くように、都度担当スタッフから連絡を行っている。その後の対応については、専門医の受診やご家族の思いも含めてホームとして出来る範囲の対応を検討することとしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常のケアの中でのバイタルチェックや常時観察を行い、変化や異常を発見したら申し送りをを行い継続した観察が出来る。必要時には速やかに受診を行い医師・看護師の指示のもと適切に対処している(1回/2Wの定期受診、その他の相談・臨時受診)。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服処方時の処方箋により、処方薬に対する理解を図っている。申し送りノートを活用し、薬の効果、副作用を理解し異常の早期発見に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い入居者1人1人に対して、適切な下剤の量・服用の時間の調整・水分補給などで対応している。毎日体操の時間に腹部マッサージを取り入れ腸の運動を促したり、日常的に散歩を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	まず自身で歯磨きを行なってもらい、その後スタッフにより歯間ブラシなどで口腔ケアを行なっている。週1回、歯科往診に来て頂いておりDrより、1人1人に応じたブラッシング方法や専用のブラシを用いた口腔ケアの支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体調・排泄状況・体重変化など状態に応じた対応をしている。状態によっては主治医に相談し定期的に血液検査を行い、低タンパク値など見られる方には、栄養補助ドリンクを取り入れるなど支援おこなっている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の対策としてマニュアル作成し流行時にはマニュアルに沿って対応し、予防衣、マスク、手袋着用し予防に努めている。感染症の情報は協力医療機関、グループスタッフにより随時情報収集し早期対応に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理については、担当スタッフがおり管理(まな板、ふきんの消毒・食器乾燥機の使用)を行っている。食材についても毎日配達があり新鮮な食材が届いており、在庫管理も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に来客用の駐車スペースを確保し、玄関脇にはプランターに花を植え、玄関内にその日の出勤職員が分かるように顔写真をプレートに掛け、入居者の作品を飾り来訪者を迎えている。併設の特養入所者やデイサービス利用者も屋内通路を通り気軽に訪問されている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の装飾は季節に応じた物に心がけ、落ち着いた空間作りに努め居間や廊下には季節の花や写真・行事でのスナップ写真を飾り生活感や季節感を感じられるようにしている。食堂・居間には長椅子、ソファを安全面、身体状況に配慮した配置にし安心して寛げる空間としている。	○	日常の中でのスタッフの声や動きなども居心地に繋がることを理解し、引き続き入居者にとって居心地の良い空間を提供出来るように取り組みたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、居眠りをしたり、テレビをみたり、作業をしたり人の気配の中で安らぎを覚えられている。身体状況に合わせて好みの場所に座れるようにソファ、長椅子を配置し気の合った方同士で話しや歌を歌われたり、又廊下や屋上広場に椅子を配置し思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れたものを持参されるように説明し、家族との思い出の写真や位牌、家具等を持ち込まれている方もいる。又ベットが馴染まない方には畳の部屋を用意する等、居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の状態や、その日の天候等により事務所にて個々に合った温度で集中管理を行い、濡れたバスタオルや加湿器を設置し保湿に努めている。その他に消臭剤の使用や寒い時期は入居者がリビングにいる時間を利用して窓を開けての換気とこまめに清掃するなどの対応をしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでの設計で、トイレ・浴槽・廊下には手すりを配し安心・安全に移動が出来る環境である。リビング内のソファーや長椅子の配置も安全に移動できるように配慮し、廊下にも椅子やソファーを置き、いつでも休憩が出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室入り口には、入居者に合わせた表札、のれんや飾りを付け本人に分かるように工夫している。トイレの目印は大きく目の高さに表示し、目の不自由な方には手の感触で判る様に凹凸を用いた表示を使用することで移動が自立出来ている。自室のダンスには何が入っているのか分かるように明記し自立支援としている。	○	居室表札には工夫しているが迷われる方や、他居室に間違われて入られる方もいる、入る方、入られる方共に混乱を招く事になる為、日々の観察に努めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上広場や、ベランダを利用してプランターに花を植えたり、日なたぼっこしながら歌をうたわれたり自由に過ごせる環境となっている。又中庭でソーメン流しや、畑で季節の野菜作りをし収穫を楽しまれている。		



V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ① 阿蘇の大自然の中緑に囲まれ、春は新緑の中、うぐいすの鳴き声が聞かれ、秋は色鮮やかな紅葉と外出する必要が無いくらいに季節を感じ、楽しめる環境の中にある。
- ② 併設の特別養護老人ホームとの連携が図れ、特に緊急時の対応については看護師の有資格者も多く、対応が速やかに行なえている。又入居者の疾患の多様化に伴い、食事提供についても管理栄養士の有資格者を固定して配置していることで、個々に応じた食事の提供が出来、禁止食品、摂取カロリーなどの管理が行なえている。その他に大きな行事として夏祭りやふれあい祭等は地域の方々のたくさんの参加があり、地域の行事として定着している。
- ③ 職員の中に資格をとる事への考えが浸透し、経験に応じた資格取得へのバックアップ体制が整っており、ダブル・トリプルと資格取得者が多く育っている。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ
(ユニット名)	すずらん通り
所在地 (県・市町村名)	熊本県阿蘇郡南阿蘇村
記入者名 (管理者)	後藤 球子
記入日	平成 21年 3月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に、独自理念である「4つの暮らし」に、地域密着型サービスとしての理念を追加し掲げている。	○	地域に向けた理念を、スタッフ間で話し合い、「ふれあい」をキーワードに理念の追加をしている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念の共有を図る為に、理念の掲示や名札に入れて携帯するなど、実践につなげている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては入居の際に理念を明確に分かりやすく説明し、事業所内の玄関、事務所、リビングの掲示はもとよりパンフレットや広報、運営推進会議で地域に広く理解してもらえよう努めている。	○	理念としてだけではなく、地域に対してグループホームの役割・機能を知っていただくように取り組みたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所との付き合いは立地条件的に難しいが、ホームとしては常に開放しており、併設施設との行事案内をしたり、デイセンター利用者の訪問や逆にデイセンターに出向く機会をつくるようにしている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる文化祭への出品や見学、地区のスポーツ大会観戦、小学校の運動会の見学や学習発表会の案内があり、参加するようにしている。但し地域との関りに消極的な方もいる為、グループホームとしての関りとは別に個人の思いも尊重している。	○	自治会や老人会等の地域活動に積極的に参加することは現状では難しい面はあるが、地域と交流する機会は今後も継続したいと思っており、増やしたいとも考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中学校の福祉体験や高校(福祉課)、福祉専門学校生の実習受け入れや教育実習生、教職員福祉研修等を受け入れる事で認知症高齢者の理解やケアの向上、人材の育成に貢献していると考えている。	○	事業所として、どれだけの地域貢献・取り組みが出来るか検討しながら、今後も要望などがあれば事業所として積極的に協力する姿勢は保ちたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を各スタッフで行うことで、それぞれのケアや取り組みの振り返りとして活用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の概要、理念、活動報告を行い現状を理解していただく事から始め、今後の取り組み等、率直な意見交換を行っている。	○	運営推進会議の開催時期や回数をより充実させながら、取り組みの報告、情報の公開等、事業所としての役割を知って頂きながらサービス向上につなげたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の特養、デイサービスを含めた法人全体としての村との連携が図れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護事業の勉強会を行っており、スタッフの制度の理解に努め、利用者や家族、地域の方に対して、必要性があれば相談・援助ができるようにしている。	○	現状では利用されている方はいないが、必要性が生じた場合は、活用に向けた支援を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護と同様に高齢者虐待防止関連の学習会を行っており、虐待の種類や心身に与える影響を知る事で事業所内での防止に努めている。	○	何気ないスタッフの言動や行動にも注意しながら、習慣的になる事がないように、意識の徹底、共有に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書により、分かり易い説明に努めている。医療連携体制の内容、看取りについての方針も説明し同意してもらっている。	○ 契約、入居時に書面により説明していることでも時間が経過し、再度説明の必要性が生じることもあり、随時説明出来るようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中での要望や思いの実現を第一に心掛けている。日常生活での問題や不安・不満を聞く機会を日常的に設け都度対応している。	○ 入居者の意見がより生活に反映されるように、今後も要望や不満が言い易い環境作りに心がけたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の取り組みや活動、スタッフの異動について毎月広報を発行し、各入居者の状況は各担当から広報と一緒に手紙を送付している。家族への報告は些細なことも面会時や電話による報告を基本としている。金銭管理についても定期的に書面による報告を行っている。	○ 事業所としてはもちろんであるが、各担当と家族との関係を特に大事にしており、報告を密に行なうことで、家族との情報交換、共有が図れると認識している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に事業所内の相談窓口はもちろん、第三者評価委員を配置していることや行政の相談受付機関の案内をし、重要事項説明書に明記している。事業所玄関に意見箱の設置や面会時に直接、意見聴取に努めている。	○ 意見箱の設置はしているが、利用はない。相談窓口や相談機関の利用を積極的に働きかけたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者などの意見に偏る事がないよう、意見が出やすいような環境作りに努めながら、日々の業務の中や会議時に意見交換の場を設けている。	○ スタッフの考えを知るためにも、話しを聞くという姿勢は意識して保ちたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や外出、病院受診に合わせた勤務体制を整えており管理者を含めて状況に応じた職員配置と柔軟な変更が出来る様になっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動に関する入居者への説明はもちろん異動後も影響が少ないように、異動前の早い段階から顔見せやコミュニケーションを図る時間を設ける等工夫している。	○ 異動に関しては、メリットもあると考えられるが、入居者への影響を最小限になるような対応と、入居者の反応には十分な注意をはらいたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修の受講、協力医療機関の健康教室や外部研修の参加に努めている。又、介護福祉士、介護支援専門員と経験に応じた資格取得、ステップアップへの協力体制が図れている。	○ 継続してホーム内の勉強会や外部研修会へのスタッフ参加に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム連絡会の研修会・学習会に参加し情報交換を行う事で、質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	併設施設として業務上の悩み等、相談出来る対象が多くいることや、親睦会や職員旅行への参加、環境的にはリビング横にテレビ、冷暖房完備の休憩室が配置され業務と完全に離れる事が出来る空間を設けている。勤務シフトに関しても配慮し働きやすい環境づくりに心掛けている。	○ 取り組み、考え方の一つとして勤務シフト、特に希望休には配慮した勤務表を作成している、家庭と仕事のバランスや余暇を充実して送れることで、ストレスの軽減につながると考える。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人全体としてスタッフの資格取得について積極的に支援されており、各自が資格取得という明確な目標に向かって努力出来るような体制が出来ている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の状態も含めて、それぞれに不安や求めている事には違いがあり、表現されること自体難しい場合もあると思われるが、出来る限り本人の思いを引き出すように心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の面談の際にご家族からの思いを十分に聞いたうえで、それについて事業所としてどのような対応が出来て、何が出来ないのかを理解していただく、家族の思いを含めた状況を把握する事と事業所の考えを知っていただく事が関係づくりの第一歩と考える。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的に併設の居宅支援事業所と共に初期の見極めを行い、当事業所の入居も含めて他サービスの必要性も検討し対応している。	○	対象者の状況や相談の内容によっては、他のサービスや事業所の紹介をする等行なっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や体験入居等は随時受け入れ可能としており、スタッフとの関係作りや環境、雰囲気慣れて頂くことを勧めている。又可能であれば状況に応じてご家族に協力を依頼し、入居後も外泊・外出を多く取り入れながら、徐々に生活に慣れて頂いている。	○	入居後、生活に慣れられるまでの期間をデイサービスやショートステイ的な利用計画を立て、その間は居宅や併設事業所の送迎協力等もありスムーズな入居に至った。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の生活のペースを尊重しながら、共に活動し過ごす事を基本としており、お互いに協働しながら生活できる環境づくりに努めている。又スタッフの良き理解者としての役割を意識して頂くことでより良い関係作りに努めている。	○	馴染みのある活動を計画し、スタッフと共に協力しながら、満足感が得られるような時間を提供したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	各担当との関係作りは大切にしており、日々の暮らしや体調面での状況等月に一度広報と一緒に担当より近況報告し、情報の共有に努めている。又問題ある場合は随時連絡し共に問題解決を行い、ご家族とスタッフで入居者を支えあう関係作りに努めている。	○	家族と入居者を支え合う関係作りを築くにあたり、まずホームでの生活状況を知っていただく事が大事であると考えており、良い報告ばかりではない場合もあるが、情報を共有することでより良い関係作りが図れると考える。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者とキーパーソンの家族、その他の家族との関係を充分理解した上で支援する事を基本としている。広報や近況報告をはじめ、行事の案内を行い一緒に過ごすきっかけづくりも行っている。関係が深いご家族には広報や案内を送付している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた商店や理容店に出かけたり、ショートステイやデイサービスを利用されていた方には、併設の利点を生かし、同じ地域の方の利用日に面会に行く事で、馴染みの関係の継続に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	限られた居住空間内で生活する中で、お互いを尊重し支えあって生活していけるように支援している。自宅が近く馴染みの方が入居していてもユニットが違う事もある為、普段より行き来したり、行事等合同で行うことで関係維持に努めている。	○	入居者間で過度の関わりあいが、逆に疲労になる事や、性格上周囲の方に遠慮しながら生活されている方もいる為、さりげなくサポートする事でよい関係をつくっている。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、退居されても症状が改善すれば再入居を希望される家族もおられる為、ホーム側からも退去後の様子伺い等を行い、状態の把握、連絡に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向については入居時に把握するように努めている。日常生活の中でも希望や意向は伝えられる事もあり、都度対応している。伝えることが困難な方は職員間での情報交換等で把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族や関係者からこれまでの生活状況や人間関係、社会との関わり、サービス利用状況をフェースシートに記録し全スタッフで確認、把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人のもてる力を発揮できるよう現状を把握し、日々の経過を細めに記録することで情報の共有を図っている。体調面を考慮し、その人らしく生活できるよう支援を行い、生きがいとしている作業など提供している。	○	主に入居者の状況把握を行なう手段としては、記録が重要になるが、全体的な日々の日誌や個別のケース記録、申し送りノートを有効に活用している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの意見や希望を事前に尋ね、作成した計画書を、家族、担当者、スタッフで話し合いを行い決定しており、それぞれの意見を反映した介護計画作成に努めている。	○	計画作成にあたっては、カンファレンスに家族の参加を基本としており、計画内容を理解して頂いている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング、計画の見直しを行なっているが、病気の進行、退院後の機能低下、精神状態の変化等生じた場合は、再アセスメントを基本としており、家族、関係者と話し合い、新たな計画を作成している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体的な業務日誌(日勤・夜勤)の記入と個別に記録するケース記録の記入を毎日行っている。ケース記録は日勤帯、夜勤帯、プラン内容に関する記録を色分けすることで、計画作成や見直し時に日々の経過や振り返りとして役立っている。ユニット毎にも申し送りノートがあり情報を共有することで見直しにも活かされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や専門医の往診に加え、訪問歯科診療や病院受診時は看護師付き添いによる送迎を基本としている、医療連携体制により夜間も含めて医療面の充実が図れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設特養での行事の舞踊、民謡、マジック等のボランティアの個人・団体、中学校のブラスバンド、地域の祭りでの子供みこし、理美容組合の理容奉仕、移動図書館の利用等、法人全体としての関わり、支援をして頂いている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在、他のサービスを利用されている入居者はいないが、希望や必要性があってその内容に応じたサービスがあれば対応したいと考える。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターより参加して頂いており、これをきっかけに、情報交換を密に、ケアの向上に努めたいと思っている。	○	会議時に地域密着型サービスとしての運営や取り組みに対しての助言を頂いている、今後に活かしていきたい。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び、家族等の希望を取り入れながら、納得された主治医の定期的な往診、又他科受診、救急受診時の協力病院からのバックアップにより入居者の状態に応じた適切な医療を受けられるように配慮している。変更を望まれない場合はこれまでのかかりつけ医の受診継続としている。	○	緊急時の対応として、協力病院、かかりつけ医との連携、情報交換がスムーズにいくように調整、依頼したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院、専門医(精神科)の定期的な往診により、スタッフの認知症の原因としての脳疾患の知識を得て、適した対応を心掛けている。入居者が専門的な診察や治療を受けられるように働きかけを行なっている。	○	専門医(精神科)に往診に来て頂いており、入居者がその人らしく暮らせるように認知症へとつながる脳疾患の病型を知り、適したケアを提供したい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関や併設施設の医療関係者や看護師と常に情報交換を行うことで、より適切な医療的支援に努めている。	○	相談できる機会を多くつくり、情報をより良い支援へとつなげていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は速やかに情報提供を行うことで入院中の支援がスムーズにいくように又、環境の変化による支障が最小限になるようにスタッフ、看護師により定期的な面会を行い、病棟より病状を知り、互いに早期退院に向けた連携に心掛けている。	○	協力医療機関との定期的な会議を行い、情報交換を図っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を検討する中で、カンファレンス時だけでなく面会時の状況報告などで家族の意向を把握しながら、それを主治医にも報告・相談している。	○	家族として徐々に重度化される姿を目にされる中で、家族の想いも変化する事もある、都度把握に努めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りの指針に沿って、本人、家族の希望を優先したいと思っている。協力医療機関、かかりつけ医はもちろん、併設特養との意見交換や福祉用具の借り入れ等の支援も受けている。終末期のケアの実践はないが、同様の体制で取り組みたいと考えている。	○	各疾患の病状に応じた対応方法や状態の見極め方など、日頃からスキルアップを図りたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの経過からすると入院もしくは介護保険施設への入所が大半であるが、心身の状況等きめ細かい情報提供を行う事でこれまでの生活の継続が図れるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を傷つけるような言葉掛けや対応には注意し、さりげない介護に努めるようにスタッフ間でも意識の向上に努めている。個人情報漏洩防止については、マニュアル作成し確認している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の行動を受容することで感情の表出を促している。自分で気持ちを伝えられない方や問いかけにも答えられない方には、その時々に応じてジェスチャーやわかり易い言葉などでコミュニケーションを図っている	○ 日々の業務の中でスタッフが落ち着いて行動することで、希望等、言いやすいような環境づくりに努めたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康・精神状態を考慮した対応を基本としており、日課やスタッフの業務に左右される事がないように柔軟に対応するよう心掛けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望に応じたスタイルに職員がカットしたり、理容奉仕馴染みの美容室に行かれる方もおられる。毎日の服の着替えは季節に応じた衣類を選べる方には選んでもらっている。また外出や行事時に化粧をしたり、ショッピングで好みの衣類を購入したりしている。	○ 年齢を重ねても身だしなみやおしゃれについての意識や気持ちを持ち続ける事は大切なことである、今後も尊重して対応したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立にてバランスの取れた食事提供を行っており、定期的に献立に関して意見を聞いている。スタッフも一緒に食事をする事で親近感が生まれている。個々の摂取状況にあわせ、食事形態を工夫する事で安全な食事に努めている。また、出来る方には下膳など一緒に行き、状況に応じて出来ない所はさりげなくカバーしている	○ 食事面については管理栄養士を固定して配置できており、入居者一人一人の意見や好み、状態を直に接する事でより充実するように取り組みたいと考える。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	普段、煙草や酒類を希望される方はいないが、お祝い席(誕生会・敬老会・正月)の時等、お酒の希望あれば対応している。誕生会の時には誕生者に事前に希望を聞き祝い食としている。	○ 慢性的な疾患により、本人の望む物をそのまま提供できない場合もあるが、栄養士と相談の上代替品等検討し満足して頂けるような対応に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンや状況に応じて、声掛けやトイレ誘導を随時行っており、不快感無く、気持ち良く過していただくように対応している、		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は毎日入れるようになっており、入りたい日や希望の時間に出来るだけ対応している。清潔保持はもちろん、気の合う入居者同士一緒に入られることで、入浴が気分的なリフレッシュの時間として活用できている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整えるよう日中の活動をうながしたり、昼食後にはゆっくりと休息出来る時間を設けている。自室では眠れない方や人の気配がないと落ち着かない方もおられる為、個々に対応している。夜間眠れない等訴えある場合は、リビングや居居で会話し安心して眠れるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中では食器洗い・洗濯物たたみ・花壇作り・野菜作り・縫い物等これまでの生活歴から個々の生き甲斐づくりとして支援している。文化祭等への展示物作製としてのわらじ作りや畑仕事・高菜漬け等経験や知恵を發揮できる場を提供し支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的ショッピングに出かけ、買い物後の支払いは、入居者本人が自分で行えるよう様に支援し社会性の維持につなげている。お金の所持については、入居者の能力や家族の希望に応じて、個別に対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の状況や希望に応じて、自宅の様子を見に行ったり、スタッフと共に薬取り等と一緒に外出しドライブしたり、天気の良い日など東屋や敷地内の散歩、菜園の様子見や中庭の花の草取り等々気分転換や五感刺激の機会を日常的に設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜・つつじ・紫陽花・コスモス見学など季節を感じていただける外出を主に行い、地域の行事や入居者の希望に応じた外出を行なっている。	○	家族との関わりとして、外出行事を有効に活用したいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
65	法令上の具体的な行為は勉強会等で共通認識とし、心身に与える影響を理解することで身体拘束はしないのが当たり前という考えがスタッフには定着している。こまめの巡回や付き添いによるケアに努めている。	○	随時、勉強会を行い意識の徹底、防止に努めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
66	入居者の不穏や状況によっては一時的に施錠する事もあったが、今現在日中は玄関、居室と鍵はかけないことを基本としている、夜間は家庭の戸締りと一緒であることを説明し施錠している。	○	施錠するという行為が、日常的に常態化することがないよう、意識の徹底、統一を今後も図りたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
67	日中、夜間共に所在確認は常時徹底する業務であり、居室、トイレ、リビング等ホーム内何処に誰がいるのかを、スタッフ間で声かけしながら把握に努めている。日中自室で過ごされる方もおりプライバシー配慮の観点からも入室時はノックすることや、さりげない安全確認に努めている。	○	所在確認表を作成、利用することで意識向上に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
68	注意が必要な物品は預かる事になっているが使用目的が適正であるかを常に確認しながら危険なものは個々の対応を基本としている。又一緒に作業するなど、管理に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		
69	転倒防止に対する環境整備や誤嚥防止の為の食事形態の工夫等、入居者個々の想定される事故やヒヤリハットを会議等で検討し、緊急対応時のマニュアルも作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応策はマニュアルを作成し、職員間で確認している。急変時の対応についての勉強会を行うことで全スタッフが対応できるようにしている。	○	緊急時の対応が更に落ち着いて出来るように、勉強会などでシミュレーション等を取り入れる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設特養との火災時の全体避難訓練や消化栓の取り扱い、消火器を使った消化訓練を消防署立会いで実施しており、消化設備の点検も定期的に行われている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時やケア会議時、又面会時に今現在の心身の状況を説明し今後起こりうる状況(転倒、将来的なレベル低下)をご家族には理解して頂くように、都度担当スタッフから連絡を行っている。その後の対応については、専門医の受診やご家族の思いも含めてホームとして出来る範囲の対応を検討することとしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常のケアの中でのバイタルチェックや常時観察を行い、変化や異常を発見したら申し送りを行い継続した観察が出来ている。必要時には速やかに受診を行い医師・看護師の指示のもと適切に対処している(1回/2Wの定期受診、その他の相談・臨時受診)。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服処方時の処方箋により、処方薬に対する理解を図っている。申し送りノートを活用し、薬の効果、副作用を理解し異常の早期発見に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い入居者1人1人に対して、適切な下剤の量・服用の時間の調整・水分補給などで対応している。毎日体操の時間に腹部マッサージを取り入れ腸の運動を促したり、日常的に散歩を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	まず自身で歯磨きを行ってもらい、その後スタッフにより歯間ブラシなどで口腔ケアを行なっている。週1回、歯科往診に来て頂いておりDrより、1人1人に応じたブラッシング方法や専用のブラシを用いた口腔ケアの支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体調・排泄状況・体重変化など状態に応じた対応をしている。状態によっては主治医に相談し定期的に血液検査を行い、低タンパク値など見られる方には、栄養補助ドリンクを取り入れるなど支援おこなっている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の対策としてマニュアル作成し流行時にはマニュアルに沿って対応し、予防衣、マスク、手袋着用し予防に努めている。感染症の情報は協力医療機関、グループスタッフにより随時情報収集し早期対応に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理については、担当スタッフがおり管理(まな板、ふきんの消毒・食器乾燥機の使用)を行っている。食材についても毎日配達があり新鮮な食材が届いており、在庫管理も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に来客用の駐車スペースを確保し、玄関脇にはプランターに花を植え、玄関内にその日の出勤職員が分かるように顔写真をプレートに掛け、入居者の作品を飾り来訪者を迎えている。併設の特養入所者やデイサービス利用者も屋内通路を通り気軽に訪問されている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の装飾は季節に応じた物に心がけ、落ち着いた空間作りに努め居間や廊下には季節の花や写真・行事でのスナップ写真を飾り生活感や季節感を感じられるようにしている。食堂・居間には長椅子、ソファを安全面、身体状況に配慮した配置にし安心して寛げる空間としている。	○	日常の中でのスタッフの声や動きなども居心地に繋がることを理解し、引き続き入居者にとって居心地の良い空間を提供出来るように取り組みたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、居眠りをしたり、テレビをみたり、作業をしたり人の気配の中で安らぎを覚えられている。身体状況に合わせて好みの場所に座れるようにソファ、長椅子を配置し気の合った方同士で話しや歌を歌われたり、又廊下や屋上広場に椅子を配置し思い思いに過ごされている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れたものを持参されるように説明し、家族との思い出の写真や位牌、家具等を持ち込まれている方もいる。又ペットが馴染まない方には畳の部屋を用意する等、居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の状態や、その日の天候等により事務所にて個々に合った温度で集中管理を行い、濡れたバスタオルや加湿器を設置し保湿に努めている。その他に消臭剤の使用や寒い時期は入居者がリビングにいる時間を利用して窓を開けての換気とこまめに清掃するなどの対応をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでの設計で、トイレ・浴槽・廊下には手すりを配し安心・安全に移動が出来る環境である。リビング内のソファーや長椅子の配置も安全に移動できるように配慮し、廊下にも椅子やソファーを置き、いつでも休憩が出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室入り口には、入居者に合わせた表札、のれんや飾りを付け本人に分かるように工夫している。トイレの目印は大きく目の高さに表示し、目の不自由な方には手の感触で判る様に凹凸を用いた表示を使用することで移動が自立出来ている。自室のダンスには何が入っているのか分かるように明記し自立支援としている。	○	居室表札には工夫しているが迷われる方や、他居室に間違われて入られる方もいる、入る方、入られる方共に混乱を招く事になる為、日々の観察に努めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上広場や、ベランダを利用してプランターに花を植えたり、日なたぼっこしながら歌をうたわれたり自由に過ごせる環境となっている。又中庭でソーメン流しや、畑で季節の野菜作りをし収穫を楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ① 阿蘇の大自然の中緑に囲まれ、春は新緑の中、うぐいすの鳴き声が聞かれ、秋は色鮮やかな紅葉と外出する必要が無いくらいに季節を感じ、楽しめる環境の中にある。
- ② 併設の特別養護老人ホームとの連携が図れ、特に緊急時の対応については看護師の有資格者も多く、対応が速やかに行なえている。又入居者の疾患の多様化に伴い、食事提供についても管理栄養士の有資格者を固定して配置していることで、個々に応じた食事の提供が出来、禁止食品、摂取カロリーなどの管理が行なえている。その他に大きな行事として夏祭りやふれあい祭等は地域の方々のたくさんの参加があり、地域の行事として定着している。
- ③ 職員の中に資格をとる事への考えが浸透し、経験に応じた資格取得へのバックアップ体制が整っており、ダブル・トリプルと資格取得者が多く育っている。